



## 庭を掃く

西村 好美  
(富山)

木の間より雪山遠く輝きて冬を越えたる庭を掃きゆく

春が来て雪の消えたる庭を掃く苔に散らばる落葉は山に

杉の葉を（すんば）と呼びて焚き付けに重宝せしは昭和の世まで

部屋隅に母の遺せし四点杖鈴下げしまま二年半過ぐ

わが庭の松は母なり杉は父ひそかに決めて今宵も声掛く

甘酒は二月がうまし地元産糶がいちばんひと他人にも配る

アヒル飼ふ珈琲店ダックス・ファームに月イチで短歌を学ぶ女二人

月末の数日間は我武者羅に読んだり聴いたり音訳に徹す

近頃は「だったり、だったり」ばかり聞く並立助詞の「や」は死んだのか

気仙沼とありて塩辛手に取りぬ伯父が津波に逝きし地なれば

失語症の母が年始に言ひし声「よのなかにつくす」折々憶ふ

黒部川の洪水防ぎし霞堤かすみてい下校時みなと探検せしよ

黒部川扇状地駆くるマラソンに吾を母さんと呼ぶ人も走る

大いなる流れの涯のこの命 海に注ぎて宙そらをめぐらむ

連れ立ちて夫と本屋に来て人に「仲良きことは美し」と言はる

### このごろの私

この春から体育センターの「えあろびくす教室」へ通うことにした。初心者向けのなので運動不足の私でも、ついていけそうだ。小さな夢だったのでうれしい。心身共にシエイブアップを計るぞー。



## 入試まで

前中 映  
(東京)

このごろの私  
銭湯によく行くようになり  
ました。仕事<sup>が</sup>早く終わると  
きはタオルなど（お風呂セ  
ット）を持って出て帰りにひ  
とつ風呂浴びてます。湯上が  
りの体を風に冷ましつつ歩く  
のもまたいいのですよ。

千両も万両も濡れ人も濡れ師走の雨の花市しづか

「うみ」と呼ぶをさなの声を聞きながら電車は冬の隅田川越ゆ

やはらかな襷の奥処に刃を入れて白子の白を切り分けてゆく

算数をなめとんのかと脅しつつノートに大き<sup>バツ</sup>×をつけたり

づかづかと他人の家に上がり込む家庭教師として二十年

「合格の仕方を教えて下さい」と小さな文字の小さな手紙

あらたまの年のはじめのキヨスクに（ひよ子）ふた箱買ふ男あり

知らぬ間に（さくらトラム）になつてゐる都電荒川線おまへもか

コスモスは秋の花だといふことも消去法にて選る受験生

（さんねんないきもの）として生きてゐるわれら夜更けの電車に揺られ

朝ドラの光あかるきちやぶ台に松阪慶子が泣きくづれたり

唐突にブレーカー落つ しんしんと静かな部屋にしんしんとひとり

終はつたら遊びまると言ひながら「入試まで7日」を子が破り捨つ

自販機に肩をあづけて自販機のかすかな息を聴く夜の駅

一月は別れの季節 どの子にも心をこめて同じこと言ふ